

八田中学校通信

文責・発行 神宮司 剛

令和7年度

第6号

10月7日

秋桜祭 「笑顔満祭～輝け僕達の青春～」9月20日(土)21日(日)

生徒会執行部を中心に、157名の青春が輝きました。生徒達、保護者の皆さん、教職員の心に残る、生徒たちの素晴らしい学園祭となりました。

「仮面」～初舞台を自分の役割で支えた1年生～

1年生にとって初めての秋桜祭は、自らの役割を見つけ、真剣に取り組む姿が随所に見られました。舞台「仮面」では、緊張感漂う本番の中でキャストが堂々と演じ、裏方も最後まで集中を切らさず舞台を支えました。体育祭でも、先輩たちに臆することなく、声援と競技に全力で挑む姿に、生徒たちにとって、自分がこの学校の一員として力を発揮できるという実感が得られた時間でした。こうした経験が、自信と責任感へつながり、次年度への土台となることでしょう。

「夢から醒めた夢」～合意と運営を一人称で動かした2年生～

舞台「夢から醒めた夢」では、演技だけでなく舞台裏のチームワークも光りました。すべてを“自分ごと”として動かす姿勢が、準備から本番までの一体感を生み出しました。体育祭では、全力で勝負に挑み、仲間の悔しさにも寄り添う姿が印象的でした。生徒会や実行委員として行事全体を支えた2年生の姿から、一人ひとりの中に「自分が学校を動かす」という誇りと責任感が芽生えていたのが、何よりの成果でした。

「べっかんこ鬼」～3年生全員でつくりあげた集大成～

3年生は、最後の秋桜祭にすべてを注ぎ込みました。舞台「べっかんこ鬼」では、演出・演技・大道具が一体となり、観る人の心を揺さぶる深い作品を届けてくれました。合唱「群青」の歌声には、3年間の想いと仲間との絆が込められ、保護者の目にも涙が浮かびました。体育祭では、応援団を中心に学年が団結し、勝利を信じて声を枯らす姿に、後輩への背中を感じました。勝ち負けを超えて、“やり切った”という誇りが心に刻まれました。それこそが、未来を拓く本当の力だと信じています。

「日日新」～生徒一人一人の未来へ～

秋桜祭は、単なる学校行事ではありません。校訓「日日新」の精神が、息づく実践の場なのです。一人ひとりが「チャレンジ」「ふり返り」「1%の改善」を繰り返す中で、挑戦する楽しさと、仲間と協働する喜びを体験していました。そこには、失敗を恐れず自ら行動し、仲間と共に乗り越えていく本校の校訓「日日新」の精神が根づいています。生徒一人一人のこうした学びと成長の確かな、学力や進路だけでなく、人間としての土台となり、やがて社会で輝く力につながっていくと確信しています。地域や保護者の皆様とともに、これからも一人ひとりの「未来を育てる学校」でありたいと願っています。



「PTA 奉仕作業」～学園祭を支える大切な力～

9月6日(土)朝7時。秋桜祭を目前に控え、生徒と多くの保護者の皆様が集まり、PTA 奉仕作業を行いました。生徒たちは、自分の保護者が一緒に汗を流してくれる姿を目にし、背中を押されたような思いだったことでしょう。「自分たちのために来てくれた」という実感が、自然と誇らしさややる気へとつながっていくのだと思います。

ご参加くださった皆様に、心より感謝申し上げます。すでに強歩大会の監察にも多くのお申し込みをいただいており、本当にありがとうございます。こうした保護者の皆様の温かな関わり一つひとつが、子どもたちにとってはかけがえのない励ましとなり、学校生活の支えとなっています。今後もさまざまな場面で、ぜひ子どもたちの姿にふれていただければ幸いです。

「新人戦壮行会」～挑戦を楽しむ心を胸に～

10月3日(金)、体育館にて新人戦に向けた壮行会が行われました。吹奏楽部の軽やかな演奏にのせて選手たちが入場し、各部の代表が舞台上で決意を語りました。「チャレンジを楽しみたい」「勝負の場を自分の成長にしたい」そんな前向きなメッセージが、生徒たちの言葉から力強く伝わってきました。



選手代表大工原輝君のあいさつには、支えてくれる仲間や保護者、地域の皆様への感謝とともに、「応援を力に変えて、全力で戦います」という熱い想いが込められていました。

心を動かされたのは選手たちだけではありません。応援する側の生徒たちの声にも、真剣さと温かさが宿っていました。誰かを応援することで、自分自身の心も育っていくそんなことを感じさせる、素晴らしい時間となりました。

「感謝」では足りない～湯澤工業さん、全社員のちから～

10月4日(土)、本校にて心温まる清掃活動が行われました。側溝の土をすべて取り除くという大規模な作業に、湯澤工業株式会社の社員約60名余の皆様が、重機と手作業を用いてご協力くださいました。

校庭の側溝は、長年の土砂の堆積によりすっかり埋もれ、「ここに側溝があったのか」と思うほど草が生い茂っている状態でした。開校から30年以上が経ち、目の届かない場所にも少しづつ時間の経過が刻まれていました。

そんな中、「地域に貢献したいので、ハサウチのためにできることはありますか?」と、湯澤社長から温かなお申し出をいただきました。そして当日、社員の皆様が3時間以上かけて丁寧に、そして組織的に作業を進めてくださいり、側溝はかつての姿を取り戻しました。

その光景はまさに「プロフェッショナルの真骨頂」。チームワークで笑顔を交えながら作業に取り組む皆様の姿は、生徒や教職員の心に深く刻まれました。「感謝」という言葉ではとても足りない、そんな気持ちでいっぱいです。この学校が、地域の皆様に支えられている場所であることを、改めて強く実感した一日でした。湯澤工業株式会社の全社員の皆様、本当にありがとうございました。

